

しとしと雨の日は、映画を見るに限りです

たまシネマ 通信



TAMA CINEMA FORUM

TAMA 映画フォーラム実行委員会

〒206-0025 多摩市永山 1-5 ベルブ永山 (永山公民館内)

代表：042-337-6661 直通：080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

7月号 2019年7月7日発行

7月特別上映会

『こどもしょくどう』

7月20日(土)

会場：ベルブホール

(ベルブ永山 5F 京王永山駅・

小田急永山駅下車徒歩2分)

①10:30～12:03 上映

②13:30～15:03 上映

…15:03～15:45 トーク…

③16:30～18:03 上映

④18:30～20:03 上映

*トークのみの参加は無料です。

「広がり！想いを
カタチにした取り組み」
共催：多摩市永山公民館

加藤悦雄氏、近藤博子
氏、松本靖子氏



©2018「こどもしょくどう」製作委員会

前売：大人 1,000 円 当日：大人 1,200 円(中学生以上) 子ども 600 円(4歳～小学生)

※支援会員、障がい者とその付添者1名は600円。「ふたり割」あり。詳細は特設サイトにて。

『こどもしょくどう』特別上映会 特設サイト <https://www.tamaeiga.org/special/kodomoshokudo/>



つながる場所があるということ

特別
レポート

愛宕だれでも食堂

多摩にも、子どもや地域に開かれた食堂があることをご存知ですか？
『こどもしょくどう』の上映の前に、会報メンバーが訪問、取材をさせていただきました。

毎週土曜日夕方、「のんびりカフェ 風の家」で手づくりの夜ごはんをふるまっている「愛宕だれでも食堂」。

子どもだけでなく、高齢者や障がい者など訪れる人だれでもを受け入れること、食品添加物などを使わない健康にいい食事を食べてもらうことにこだわりながら、代表の齋藤美津栄さんをはじめとしたボランティアの方々によって運営されています。3年前に始まって以来、クチコミで輪がひろがっていき現在では毎週40人ほどが訪れているそうです。

メニューは、高齢者の好みとのバランスをとつつも、子どもが喜ぶ食べもの優先で決めているそうで、この日はミートソースとポテトサラダ。子ども無料、おとな300円という安さにおどろいてしまうほど、しっかりとお腹にたまるボリュームです。お店のなかはわきあいあいとした和やかな雰囲気



で、食堂の終わりの時間には、子どもたちが片付けを手伝っている光景もありました。➡



高齢者による利用も増えているなか、毎週集まって夜ごはんを食べることで、「愛宕だれでも食堂」が地域の安否確認や助け合いのサロンのような存在になっているのだと、齋藤さんはおっしゃっていました。映画『こどもしょくどう』のなかでも描かれている“食べることはつながり”というキーワードを、ここ「愛宕だれでも食堂」でも感じることができました。(野瀬)

愛宕だれでも食堂

日時：毎週土曜日午後5時～7時

場所：のんびりカフェ 風の家（多摩市愛宕1-1-1 101）

料金：18歳以下 無料／70歳以上 100円／障がい者 100円／おとな 300円

公式Facebook <https://www.facebook.com/atagokodomoshokudo/>

特別上映会 企画者メッセージ

「こどもしょくどう」。ほんわかとした言葉の奥にある冷え冷えとした現実。

連日報道されている子供への虐待、学校でのいじめ。積み重なる幼い命のぬげから。

そのたびに繰り返される大人達の謝罪。

「あの時は、いじめとは思わなかった」「あの時は、虐待とは思わなかった」「あの時は・・・」「あの時は・・・」

この映画で小学5年生の高野ユウトは最後に叫ぶ。「僕はいつも知らんぷりしていた」

この映画を一人でも多くの人達に観てもらいたい。そして半歩でも現実に近い近づいて行ってほしい。(竹内)

『こどもしょくどう』 をみて

実行委員が感じたこと。

寄り添うって何だろう。

気遣うって何だろう。最近の日本人は、「寄り添うフリ」や「気遣うフリ」をしている人が多いのではないのでしょうか。そんな全ての日本人に観てもらいたい映画です。様々な子どもの貧困をリアルに描かれていて、自分に出来ることは一体何だろうかと考えさせられました。(廣島)

つい知らんぷり、そんな自分に反省を促されているような気持ちで、どんな映像に引き込まれていきました。希望を捨てたくなくて動き出したこどもたちの勇気、その健気な姿に影響を受けて、動き出したおとなたち。みんなが気を配りあい、おとなもこどもも、豊かな気持ちで暮らせる社会を守る大人の責任を強く感じました。(西村)

実行委員 presents

たまスタグラム



多摩エリアで出くわした、心動くひとコマを。



a~c 特別上映会の作品にちなんだ自作料理(永井)、
d 雨上がりの多摩川にかかった虹(中原)、
e あじさい(陳)



誌上チャットルーム

映画の「何らか？」から連想してメンバー同士でつなぎます。

『(500)日のサマー』

前回

陳

な

『初恋のきた道』

前回の春に続いて「夏」な映画?。(タイトルだけ?)
文化系な男の子トムと自由奔放な女の子サマーのボーイミーツガールの物語。(ふたりは立派な大人。ここが重要)
The Smithsなどの楽曲が入ったサントラも充実の内容で、映画と合わせて楽しめます。
映画で使われた曲が気になったときは、さっと調べて聴けるサブスクが便利ですよね。
『ボヘミアン・ラブソディ』のスタッフがエルトン・ジョンの半生を描く『ロケットマン』のサントラも既にApple Musicなどで配信中。8月の公開まで楽しみを膨らませる毎日です。(な)

6月8日、『バジュランギおじさんと、小さな迷子』上映会一。

果たしてTAMA映画フォーラムの特別上映会でインド映画はどのぐらい需要があるのか…と、ドキドキしながらの企画となりましたが、フタを開けてみたら大盛況。インド神話や比較神話でご専門の大学講師・沖田瑞穂さんによるトークイベントも、

普段あまり聞けない話とあって、たくさんの方にご参加いただきました。

また、映画の上映会の面白さに「1つの会場で同じ体験・感情を共有する」ということがあるとは思いますが、今回、アンケートや来てくれた知人から「会場の皆と一緒に笑って泣けて楽しい上映でした」という声をいただき、上映会でやった意義を改めて感じました。これからも国やジャンル関係なく、そんな上映会ができればと思っています。ご来場いただいた方々、ありがとうございました。(折笠)



沖田瑞穂さん(右)、司会役の実行委員(左)

☑ TCFからのお知らせ

第29回 映画祭決定!

TCF (TAMA CINEMA FORUM) が運営する、映画祭 TAMA CINEMA FORUM。今年は11/17(日)・11/23(土)~12/1(日)に開催予定です。どうぞお楽しみに!

支援会員さまを募集しています!

当映画祭を資金面でサポートいただける支援会員さまを募集しています。支援会員さま限定の特典をさまざまご用意しております。お問い合わせは下記まで。

【支援金寄付 個人会員】 一口 1,000円から
郵便振替番号 00160-5-541123
加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

御礼 日本映画批評家大賞にて受賞!

第28回日本映画批評家大賞にて、TAMA映画フォーラム実行委員会が「松永武賞」を受賞しました!
本賞は「愛や志で日本映画の活性化に尽力」した個人や団体に贈られる、今年から新設された特別賞です。数多くの映画芸能関連資料を集めた

資料館「松永文庫」を個人で立ち上げた松永武氏の名前を冠した賞の最初の受賞者となりました。
5月30日、青山スパイラルホールで行われた授賞式にも参加させていただきました。
今回の受賞を励みに、今後もさらに市民主体での文化活動を盛り上げていこうと思います!(薄葉)

TCFの最新情報やお問い合わせはこちらから

WEB www.tamaeiga.org 「TAMA映画フォーラム実行委員会ホームページ」

SNS [@tamaeiga](https://twitter.com/tamaeiga) (TAMA映画フォーラム【公式】)

[tama_cinema_forum](https://www.instagram.com/tama_cinema_forum)

www.facebook.com/tamaeiga

tamaeiga



たまシネマ通信 2019年7月号 (2019/7/7 発行)

※無断転載を禁じます

発行元: TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山 (永山公民館内)
編集長: 野瀬 編集: 野瀬、陳、永瀬、薄葉、大坂 デザイン: 大坂 企画・協力: TAMA映画フォーラム実行委員